

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等
教科名	科目名	（評価小項目）						
国語	国語総合	基礎学力の充実を図り、生徒の実態に応じた指導内容を精選する。	1年次は基礎学力の定着を図る	B	B	B	「朝の学習」として漢字テストを取り入れることで、基礎レベルから漢字や語句を見直すことができたが、理解の定着について課題が残った。	週単位での再テストだけでなく、学期ごとなどで振り返りのテストを検討する。
	現代文B	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。	図書館と連携し、読書の習慣を身につけさせるよう、教員自らが図書の推薦を行う。	C	C		教員自らが本を紹介するなどの機会を設けたが、教員間でも温度差があり十分に展開できなかった。	読書週間を設けたり、「図書通信」などを作成をし、情報発信をする。
	古典B	言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を高める態度を育てる。	スピーチやディベートなどの発表の場を多く設け、授業で展開する。	B	B		発表する場面などは多く設けることができたが、教科内で共有し系統立てた指導ができなかった。	評価方法があいまいになりがちなので、目標設定を明確にする。
	国語演習	各コースに応じた指導体制を確立し、そのコースに応じた国語力を養成する。	特進コースにおいては難関大学、センター試験に対応できる実力を養成する。	A	B		コースの教科指導を統括する教員を配置することで、教材選びから評価まで3年間（3学年）の指導を系統立てて展開できた。	統括する教員を中心にさらに指導計画や評価の方法などを明確にし、国語科内で検証する環境を整備する。
			表現・情報コースでは表現分野を重視した授業を展開し、話すこと書くことに重点を置く。	B			古典の授業や小説などで演劇を取り入れるなど表現を重視した授業も展開できたが、授業の展開方法や評価の方法に戸惑いが生じた。	アクティブラーニングの位置づけを考える。評価方法などについて研修を受け、教科内で情報の共有する。
			スタンダードコース・アスリートコースでは、国語の総合的な力を養成する。	B			基礎知識等の定着から応用力まで幅広い学力を身につけるため、授業外（補習など）での学習に対して時間を割いた。基礎学力は朝の10分学習で、発展した応用力は放課後の補習などを実施し、安定した授業展開ができた。	1年～2年は基礎学力の定着のため、引き続き小テスト等を実施する。3年は新しくドリル形式の教材で応用力を身につけさせる。
地理・歴史	地理	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方・考え方を培う。	地図帳・統計資料・画像・映像・インターネット等を効果的に活用し、視覚的・空間的な理解と認識を深める。	B	B	B	基本的事項については理解できているが、統計資料や主題図からの読み取りは不十分であった。	歴史、政治経済等の関連教科で得た知識の応用と図表統計の判断力向上に努める。
	日本史	我が国の歴史的事実の認識と我が国の伝統と文化に関する理解を深め、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	史料・歴史地図、映像、画像等を効果的に活用することにより、歴史に対する興味関心と学習意欲を高めさせるように工夫する。	B	B		教科書の内容が終われるようになった。しかし、映像等を効果的に十分活用できなかった。	積極的に映像教材を活用する。
	世界史	世界の歴史的事実の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野から考察し、歴史的思考力を培う。	史料・歴史地図、映像、画像等を効果的に活用することにより、歴史に対する興味関心と学習意欲を高めさせるように工夫する。	B	B		今日の世界と結びつけ、なぜ今こうなっているのかを考えさせた。映像等を効果的に十分活用できなかった。	積極的に映像教材を活用する。
公民	現代社会	現代社会の特徴と諸課題について、主体的に考え、人間としての在り方、生き方について考える力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。	新聞、雑誌、インターネットなどを効果的に活用し、その時々々の時事問題に関する、興味関心を持たせ、激しく変動する現代社会の様々な問題を理解、認識できるように工夫する。	B	B	B	基本的事項の理解は十分であった。複数の知識を総合させて応用問題を考えることが不十分であった。	図表・画像等を多用し、関心を高め、知識の定着に努める。
	政経	現代における政治・経済・国際関係等について、客観的に理解し、それらに関する諸問題について、主体的に考え、公正に判断できる、能力と態度を育てる。	新聞、雑誌、インターネットなどを効果的に活用し、激しく変動する国際社会・経済等に関する問題を理解、認識できるように工夫する。	B	B		現代の世界に興味を持たせるため、時事についての事柄を取り上げ理解・認識できた。	継続して実施する。
数学	数学ⅠⅡ	基礎学力の充実を図り、生徒の実態に応じた指導内容を精選する。	1年次に習熟度のリメディアル授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	A	A	B	習熟度別クラスで授業展開をすることで個々の学力に合った授業内容を実施することができた。	リメディアル授業を軸に1年数学を実施する。
	数学AB	数学的思考能力を伸ばし、問題解決を積極的に取り組む態度を育てる。	小テストや課題を積極的に与え、定期考査や模擬試験などの出題範囲と難易度を計画的に考え、自ら学習に取り組める習慣を身につけさせる。	B	B		各担当授業とその内容に応じて小テストや課題を中心に自ら学ぶ習慣作りを目指したが、その意欲は個々にばらつきがあり、目標達成したとはいえない。ただ試験前など積極的に質問にくる生徒の姿も多く、成果もあった。	個々の習熟度を踏まえた課題を与え、生徒のやる気を引き出すことに努める。
	数学演習	難関大学、センター試験に対応できる実力を養成する。	特任教員による補講を通じて、更なる学力向上に努める。	B	B		特任教員の補講でよりレベルの高い問題にも対応できるようになった。ただ、入試結果にはつながらなかった。	通常授業の中でも入試対応を考慮した内容に移行する。

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
教科名	科目名	(評価小項目)						
理科	化学基礎	生活や産業に関係深い問題を、科学的に処理するのに必要な基本的な事象・概念・原理・法則を理解し、この知識を広く応用する能力を養う。	身近な自然現象に興味を持たせ、自然の叡智から築かれた現代科学を歴史的経緯からその原理・理論に気付かせ、理解を促す。	B	B	A	身近な科学的現象からの興味を持たせる事、概念や理論、法則を理解させることは達成できた。計算等については、一部の生徒に課題が残った。	中学時代の内容と計算法を復習し、学習をすすめる。
	生物基礎	自然科学的な考え方や方法を会得しこれによって問題を科学的に処理する能力を養う。	生徒の能力に留意して、科学的概念を具体化するとともに教材を創意工夫する。	A	A		図や表などのデータを活用した提示にところがけた。多くのプリントや図解を使用し、問題集を用いて理解を深めた。	プリント等の活用は継続し、演示実験を実施する。
	物理基礎	科学的な自然観を育て、真理を愛好する精神を養い、自然科学の研究が生活を豊かにすることに貢献していることを認識させる。	人間が生態系の一員であることを理解させ、自然環境を大切にすることを育てる。	B	B		生活の中にある物に、科学の内容が数多く利用・応用されている事例を紹介し、理解に努められた。自然環境に対する学習内容が、不十分であった。	自然環境に対して、関係性を現象から随時、取り入れる。
	化学生物物理							
保健体育	保健体育剣道	集団行動「集合・解散・休め・気をつけ・前へ進め・止まれ・廻れ右・右(左)向け右(左)」を通して、機敏な動作を身に付ける。	授業時間内で、「体ほぐし運動」を完全に実施するように努める。	B	B	B	毎時間の前半に集団行動を取り入れることで、協調性ができた。体育祭の時には入場行進や整列時に成長が見られた。	継続して実施する。
		球技を通じてルールを守り、互いに協力する態度を身に付けさせる。	球技では、ルールを理解させ試合の展開ができるように努める。	B	B		男女共生の授業で体力差や能力差があるが、特別ルールをつくり楽しく、協力し合う意識ができた。	互いに助け合う姿勢を評価する。
		剣道を修練させることで、「体力」・「気力」面の充実を図るとともに現代社会で見失われつつある五心(我慢する心、思いやる心、頑張りぬく心、助け合う心、礼節の心)を習得させる。	礼儀作法を徹底的に指導するとともに暑さや寒さ痛さに耐え、精神面を強化させる。	B	B		スリッパ・自分の服・道着・袴のたたみ方など時間をかけて行った。また、正座等で我慢することや礼節の大切さを指導し続け、その必要性に気付くようになった。	授業の導入に時間がかかるが継続して実施する。
		健康とは何か。その重要性、健康成立の条件などを理解させるとともに身体の発達、生理的機能としての環境への適応能力、精神的機能としての環境への適応能力、身体活動の生理等についての理解を深めさせる。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	B	C		教師の一方通行にならないよう、理解を確かめながら行ったが、成績にはあられなかった。学習内容が健康面や生活習慣に直結しており、自己改善や自己管理する方向まで意識させられなかった。	確認テストの実施や復習プリントなどで振り返りをする。
外国語	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	高校で学習する文法事項(基礎レベル)の理解及びその文法を使った四技能の実力を養成する。高校標準レベル単語力を養成する。	市販単語集「フレーズで英単語」を活用した単語テストを実施する。(表現情報・スタンダード・アスリート)	B	B	B	朝の学習時間で単語テストを実施し、再テストまでフォローアップすることで単語学習の習慣づけになった。文法に関しては中学校での既習事項が定着していない生徒も多く、早い段階での学びなおしが課題である。	単語テストは内容等を精査しながら引き続き実施する。文法に関しては問題集やプリント教材を用いて多くの問題にあたるさせる。
		高校で学習する文法事項(応用レベル・入試対策レベル)の理解、ならびに高校上級レベル単語力の養成と入試問題に対応できる実力の養成を図る。	市販単語集「ターゲット1900」を活用した単語テストを実施する。(特進)	A			朝の学習時間や夏期・冬期講習での実施により、語い力の向上ができた。また、計画的に実施することにより、計画的な学習ができた。授業や個別指導により、問題演習の量を確保することができた。より実践的な文法事項の理解・習得ができた。	高いレベルに到達するために、授業内容を改善する。それに伴い、個別課題も充実させる。
		国公立大学・難関私立入試に対応できる英語力を養成する。	特任英語教員担当による7, 8限授業を実施するとともに、徹底した個別指導を行う。	C			徹底した個別指導により、一定の成果が得られた。7, 8限授業のあり方、各担当者と生徒間での意識の相違など見直すべき点もあった。	7, 8限授業を担当する教員と正規の授業を担当する教員との連携を徹底するとともに、7, 8限授業のあり方を見直す。
		言葉のまとまり(フレーズ)を意識したリーディング指導を行う。		B			フレーズ毎に読むことができるようになった。ただ、それをつなぎ合わせることが不十分であった。	生徒自身が答えを導き出せるように補助教材等を作成する。
		GTECの受験および受験対策指導による実力養成を図る。		B			長期休業中に事前学習としての課題を出し、年2回行うことで意欲的に取り組めた。	GTECに限らず各種の検定試験の受験を検討する。

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
教科名	科目名	(評価小項目)						
芸術	音楽	系統的かつ継続的な音楽の基礎・基本の充実を図る。	校歌の正確な斉唱を指導する。	A	B	B	声の大きさには個人差があるものの、目標としていた1番の歌詞を暗譜で演奏することができた。	内容を充実させるための準備と、音楽の楽しさを伝えるとともに興味・関心を抱かせるような工夫を凝らす。
			音楽をとおして芸術に親しみ楽しむ態度を身につけさせる。	B			興味・関心を抱かせる内容を毎時間工夫した。効果については若干のばらつきがあった。	
	美術	創造性を養い、計画的に完成度の高い作品制作を目指す。	制作手順を理解し、見通しをもって取り組み期限までに作品を仕上げられるよう指導する。	A	B		製作をねばりづよく進める事が定着し、作品の質が良くなった。	事前の準備と効果的な展開で、楽しみながら製作できるように工夫する。
			美術をとおして芸術に親しみ楽しむ態度を身につけさせる。	B			限られた時間の中で、生徒一人ひとりに十分な効果がなかった。	
家庭	家庭基礎	人の一生の発達課題を理解させ、生活に身近な社会の動きに関心を向けることで自立自学できる態度を養う。	視聴覚教材や新聞記事などを活用し、社会問題にも目を向け、学習の能率化を図る。	A	A	A	視聴覚教材を時間の都合上取り入れられなかった。新聞記事は活用できた。	新聞、活字離れが問題になっている中、関連記事を読ませ感想を書かせることで大学受験の小論文対策にもなるので増やす。
			自己の食生活を振り返り、人の一生の様々な場面で実践可能な知識と技術を身につけさせる。	A			食生活は、調理実習を含め生徒が大変興味を持ち意欲的に取り組むことができた。	
			身近な社会の動きに関心を向けさせ、生活課題に取り組む。	B			社会の動きを知らせ、子育て保育分野について、深い解説ができなかった。	
		実験・実習を組み入れ学習意欲を喚起し、理解・実践力を高める。	実験・実習を効果的に取り入れ、各学習内容に関連づける。	A	A		食物分野では火や包丁を使うという生活の基本を身につけることができた。	実習体験を通し、学べる機会を増やす。
			基本的技術を身につけさせ、根気と創造性を養い、作品作りを通して達成感を味わう。	A			エプロンの被服実習では、作品の完成を目指し、努力し仕上げる事ができた。	
		将来の自分を想像しながら生活について学び、自分なりの生活観を確立させる。	教科書課題、体験学習を通して積極的に改善し、充実した生活に結びつける。	B	B		将来への目標を立て、それに向かったビジョンを現実化できるようになった。	「夢」を語らせ、努力することが大切と気付かせる。
情報	社会と情報	自ら情報を活用しようとする姿勢を育成する。情報を適切に収集・処理・発信するために基礎的な知識と技能を習得させる。	コンピュータを活用するために、基礎的な操作技能を身につける。問題解決学習を通して収集・処理・発信の流れを理解する。	A	A	A	座学と実習を適切におりませ、知識と技術の修得に努めた。また、問題解決では、コンピュータだけでなくいくつかの思考ツールを活用してグループワークで議論できるようになった。	生徒が主体的に学ぶ環境をデザインしてさらなる学びを創造する。
	情報の科学	コンピュータサイエンスを社会で役立てる能力を育成する。表現やコミュニケーションにおいてコンピュータを効果的に活用する能力を養う。	情報通信技術を科学的に理解し、問題解決学習を通して分析やシミュレーションの手法を学ぶ。情報発信と情報伝達の基礎を学び、プレゼンテーション能力を養う。	A	A		座学と実習を適切におりませ、知識と技術の修得に努めた。また、問題解決では、コンピュータ・プログラミングによる学習を取り入れ論理的に思考することができた。	ウェブプログラミング等も実習に取り入れ、情報発信についての学習時間を多くとるように検討する。
	情報演習	2年生はオフィス系ソフトのスキルアップのための演習を行う。	インターネットを活用した調べ学習を通し、総合的な情報活用能力を身につける。	B	A		表計算・文書処理・プレゼンテーションソフトの修得は十分にできた。インターネットの活用は不十分であった。	メディアリテラシーについて座学を交えた学習時間を確保する。
	情報特演	映像作品の製作や鑑賞から自己表現能力やコンピュータスキルを高める。	静止画や動画コンテンツの製作から創造性を養い、グループ製作からは協調性とコミュニケーション力を養う。	A	A		産学連携の授業で、専門家の視点からの学習内容は生徒の興味関心を誘い、メディアに関する知識の修得に役立った。	メディアの利点だけでなく、注意すべき点を社会的な立場から学習する時間を設ける。